

決算説明会

2020年3月期 第1四半期

ミネベアミツミ株式会社

2019年8月2日

吉田です。

本日は、私より2020年3月期第1四半期の連結実績について説明し、その後、代表取締役 会長兼社長の貝沼より事業概況を含む本日のポイントを説明します。

1Qは米中問題を中心に減速が継続

(百万円)	2019年3月期		2020年3月期	前年同期比 伸び率	前四半期比 伸び率
	1Q	4Q	1Q		
売上高	213,038	185,785	204,425	-4.0%	+10.0%
営業利益	14,291	6,994	3,663	-74.4%	-47.6%
税引前利益	14,170	6,712	3,680	-74.0%	-45.2%
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	10,886	9,109	2,297	-78.9%	-74.8%
基本的1株当たり 四半期利益 (円)	25.95	21.94	5.53	-78.7%	-74.8%

為替レート	2019年3月期 1Q	2019年3月期 4Q	2020年3月期 1Q
US\$	108.10円	110.28円	110.73円
ユーロ	129.88円	126.08円	123.56円
タイバーツ	3.42円	3.47円	3.47円
人民元	17.02円	16.33円	16.28円

ただし、一過性
特殊要因あり

2019/8/2

2

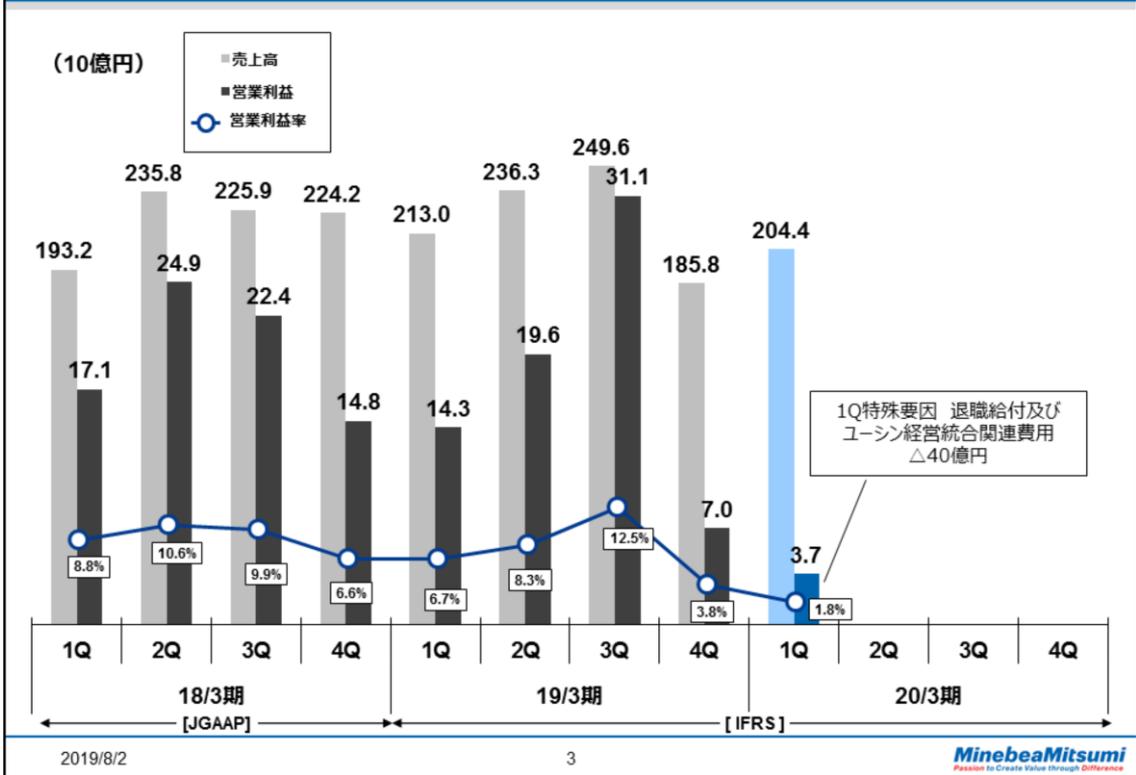


2020年3月期第1四半期の連結業績は、売上高は前年同期比で4.0%減、前四半期比で10.0%増の2,044億2,500万円でした。

営業利益は前年同期比で74.4%減、前四半期比で47.6%減の36億6,300万円、親会社の所有者に帰属する四半期利益は前年同期比で78.9%減、前四半期比で74.8%減の22億9,700万円となりました。

為替の影響は、売上高で前四半期比マイナス1億円、前年同期比プラス10億円、営業利益で前四半期比プラス1億円、前年同期比プラス6億円、との推計です。

また当社は、4月10日付で株式会社ユーシンの議決権76.2%を取得し、子会社としました。同日より同社を連結対象に組み入れたことにより、ユーシン事業を新たに報告セグメントとして開示しています。



売上高、営業利益、営業利益率の四半期ごとの推移です。

左側の棒グラフが売上高を、右側の棒グラフが営業利益を、折れ線グラフが営業利益率を示しています。

第1四半期の営業利益率は1.8%となりました。これは前年同期比では4.9ポイント低下、前四半期比では2.0ポイントの低下となりました。

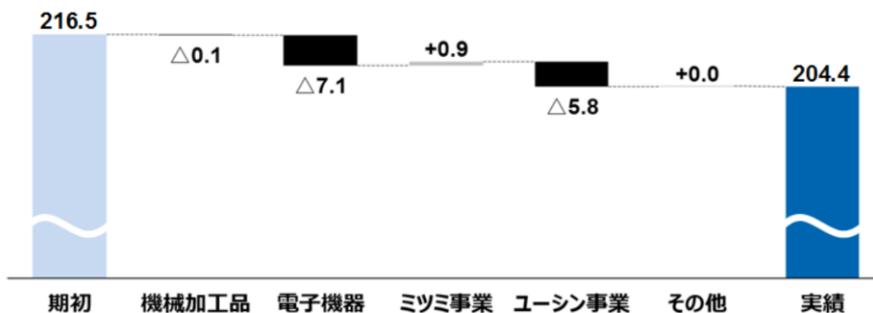
ただし、第1四半期には特殊要因として退職給付及びユーシン経営統合関連費用約40億円が含まれており、これを除いた場合の営業利益率は3.8%となります。

なお、これまでの発表数値のリファレンスのため、2018年3月期の実績値をJGAAPにて表示、説明しています。この後も同様となりますのでご注意ください。

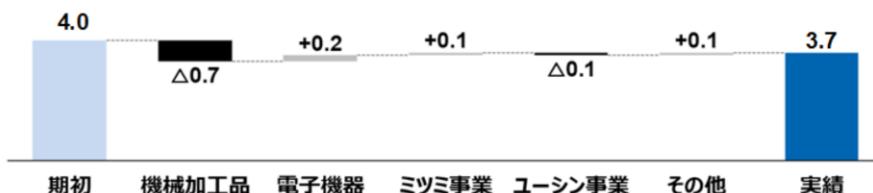
1Q実績 期初予想からの差異

(10億円)

売上高



営業利益



2019/8/2

4

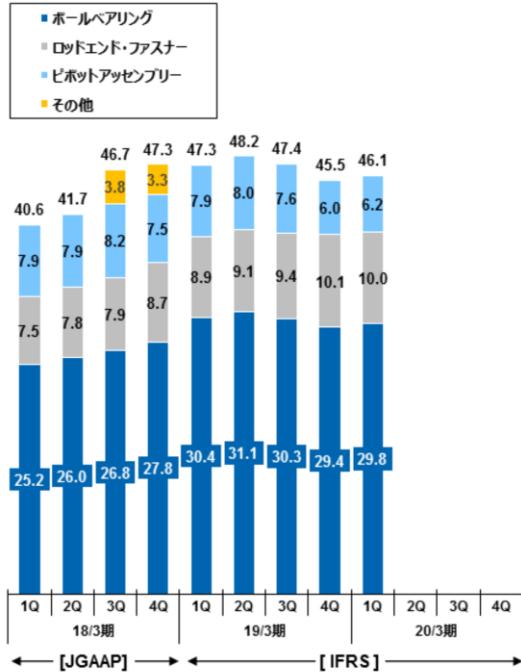
MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

これは、第1四半期の売上高、営業利益の実績につきまして、5月の決算発表時の業績予想からの差異についてセグメント別に示したものになります。

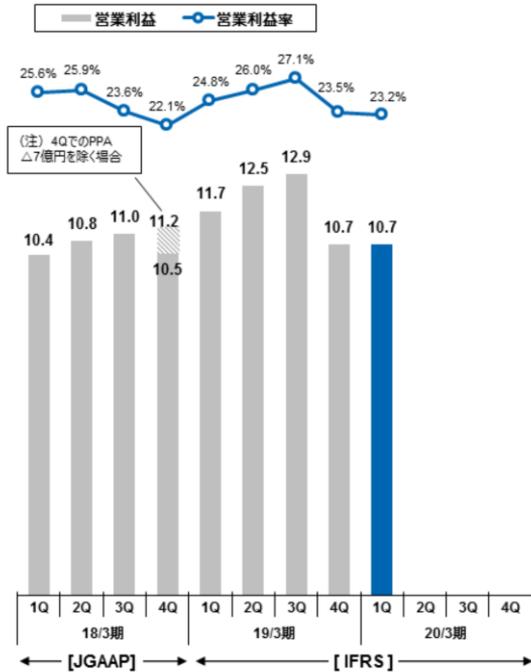
売上高においては、機械加工品事業セグメントは、概ね想定通りとなりました。一方で、電子機器事業ではエレクトロデバイスを中心に想定を下回りました。ミツミ事業においては、主にスマホ用部品の出荷の増加により、想定を上回る結果となりました。ユーシン事業においては、世界的な自動車生産台数の減速により想定を下回りました。

営業利益においては、機械加工品事業セグメントにおいて、主にファンモーター向けボールベアリングの販売数量の減少により想定を下回りましたが、そのほかのセグメントは概ね想定通りとなりました。

売上高 (10億円)



営業利益 (10億円)



2019/8/2

5

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

次に、各事業セグメントの状況について、まず機械加工品事業セグメントについて説明します。

左側のグラフが四半期ごとの売上高の推移を、右側のグラフは棒グラフが営業利益、折れ線グラフが営業利益率を表しています。

第1四半期の売上高は461億円、前四半期から1%の増加となりました。

ボールベアリングの売上高は298億円、前四半期比で1%の増加となりました。ボールベアリングの数量ですが、外販数量は月平均で1億7,900万個となりました。ファンモーター向けの需要は低調でしたが、自動車向けは引き続き堅調に推移しました。

ロッドエンド・ファスナーの売上高は100億円となり、前四半期比で1%の減少でした。中・小型機を中心に、航空機向けのビジネスは堅調に推移しています。

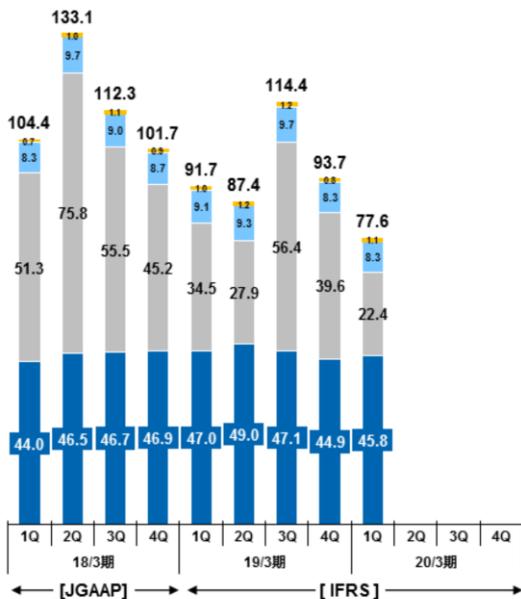
ピボットアッセンブリーは62億円となり、前四半期比で4%の増加でした。当社シェアは80%超を維持しており、安定的に収益に貢献しています。

営業利益ですが、当四半期は107億円、営業利益率は23.2%となりました。営業利益はほぼ前四半期並み、営業利益率では0.3ポイントの低下となります。

製品別では、ボールベアリング、ロッドエンド・ファスナー、ピボットアッセンブリーともに前四半期で横ばいとなりました。

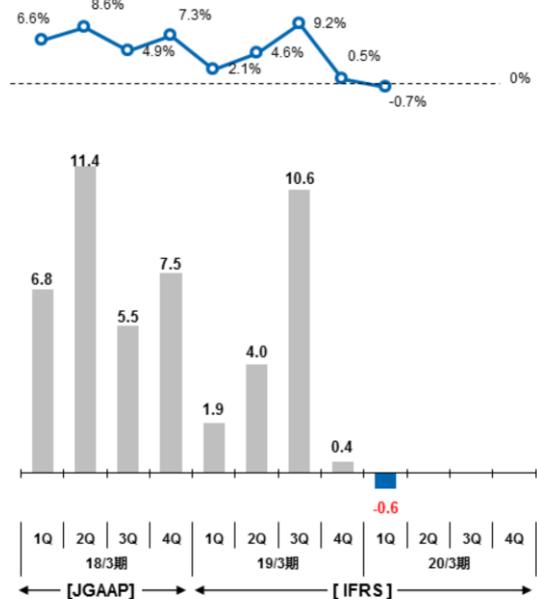
売上高 (10億円)

■ モーター ■ エレクトロデバイス ■ センシングデバイス ■ その他



営業利益 (10億円)

■ 営業利益 ■ 営業利益率



2019/8/2

6

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

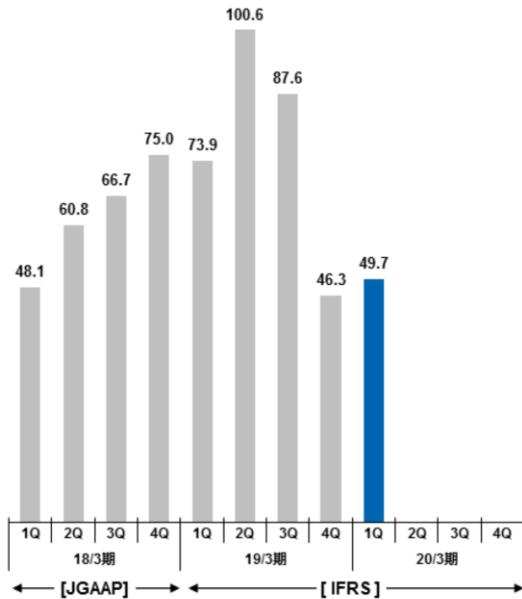
次に、電子機器事業セグメントについてご説明します。

売上高は776億円、前四半期比で17%減となりました。製品別では、モーターは前四半期から2%増の458億円となりました。エレクトロデバイスは224億円、前四半期から43%減となりました。これは主にスマートフォン市場の季節性によるものです。センシングデバイスの売上高は83億円となり、ほぼ前四半期並みでした。

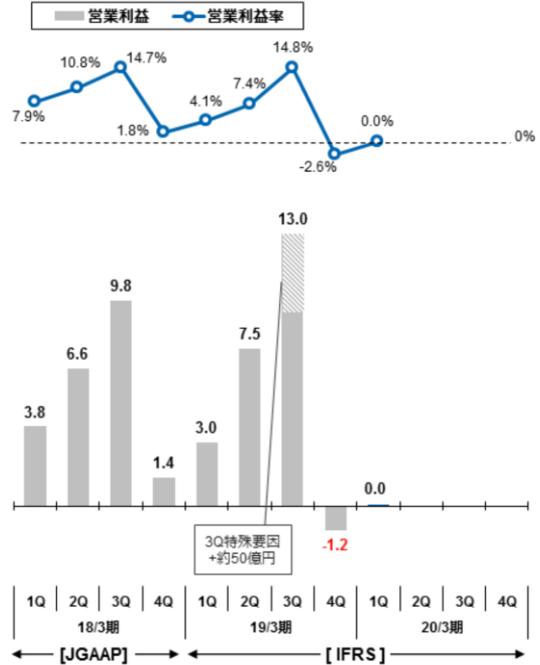
営業利益は6億円の損失となりました。製品別では、エレクトロデバイスにおいて損失を計上したものの、モーターおよびセンシングデバイスは堅調に推移しました。

なお、当第1四半期より、「ミツミ事業本部」に含まれていた電池モジュール製品を「電子機器製造本部」に移管する会社組織の変更を行いました。これに伴い、セグメント情報の変更を行っていますが、これまでの発表数値のリファレンスのため、2019年3月期までの実績値は変更前の区分のまま表示、説明しています。この後も同様となりますのでご注意ください。

売上高 (10億円)



営業利益 (10億円)



2019/8/2

7

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

次にミツミ事業セグメントについてご説明します。

売上高は497億円、前四半期で7%増となりました。これは、電池モジュール製品の移管に伴い車載製品の売上高が減少した一方で、機構部品、カメラ用アクチュエータおよび半導体の売上高が増加したことによります。

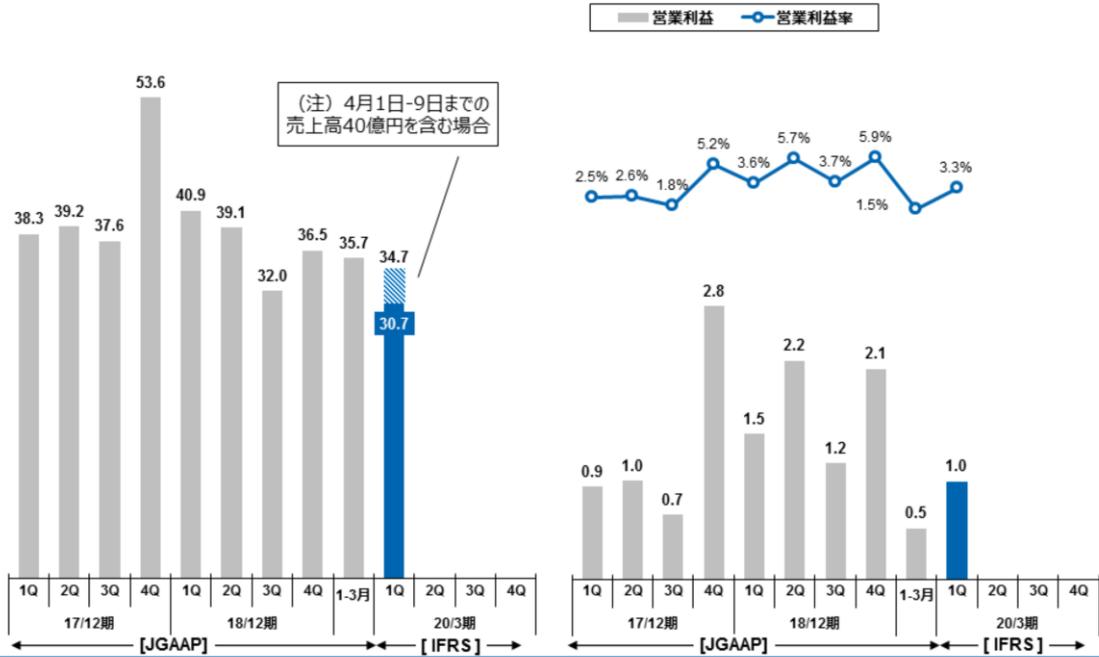
営業利益はほぼブレイクイーブンとなりました。

ユーシン事業セグメント

決算期変更に伴い17/12期4Qは4ヶ月決算
19/3までは経営統合前の参考値でJGAAP

売上高 (10億円)

営業利益 (10億円)

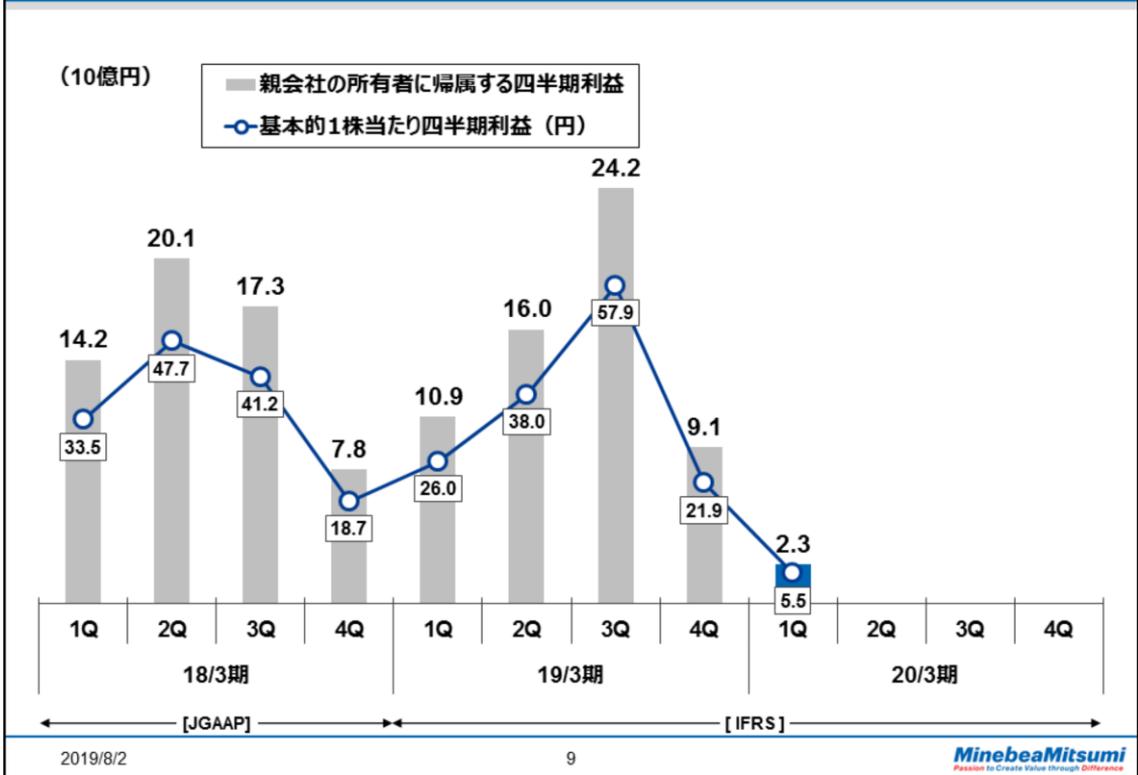


最後に、統合前を含めたユーシン事業セグメントについてご説明します。

売上高は307億円となりました。営業利益は10億円、営業利益率は3.3%となりました。前四半期比では、営業利益は2倍、営業利益率は1.8ポイントの上昇となりました。

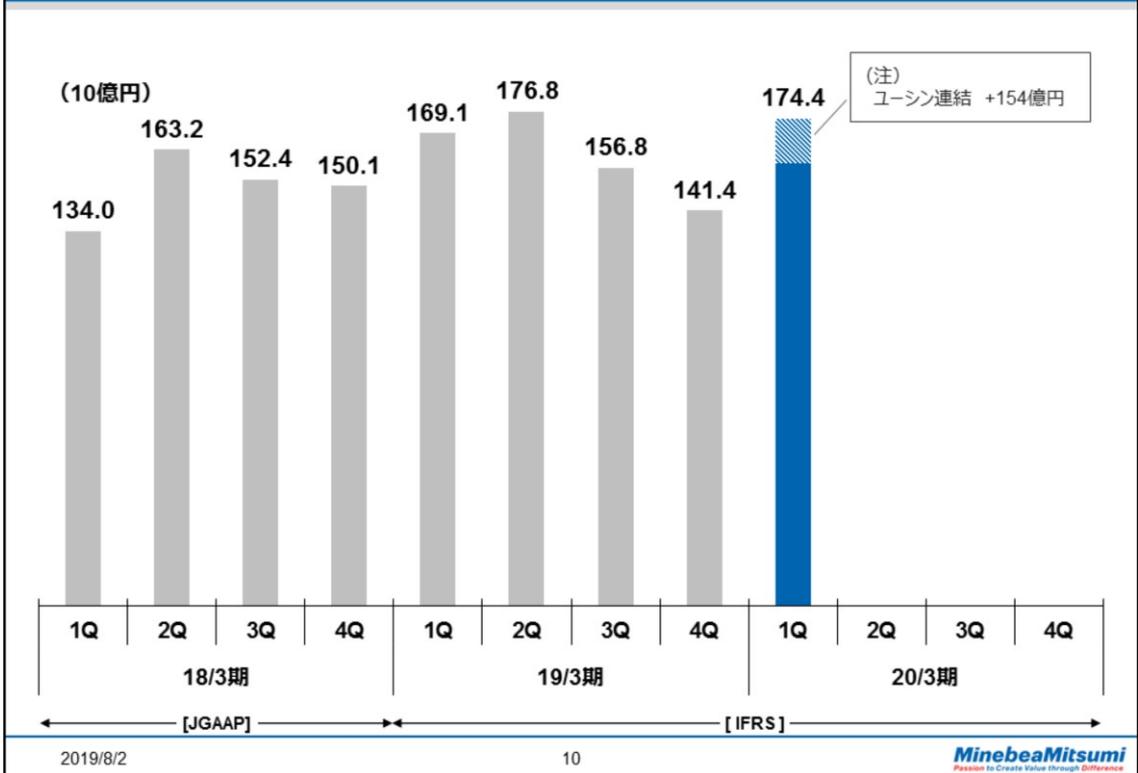
なお、ユーシンは4月10日より連結対象に組み入れられています。

4月1日～9日までの9日間の売上高は約40億円、営業利益はほぼブレークイーブンでした。



このグラフは、親会社の所有者に帰属する四半期利益の推移を棒グラフで、1株当たり四半期利益の推移を折れ線グラフで表しています。

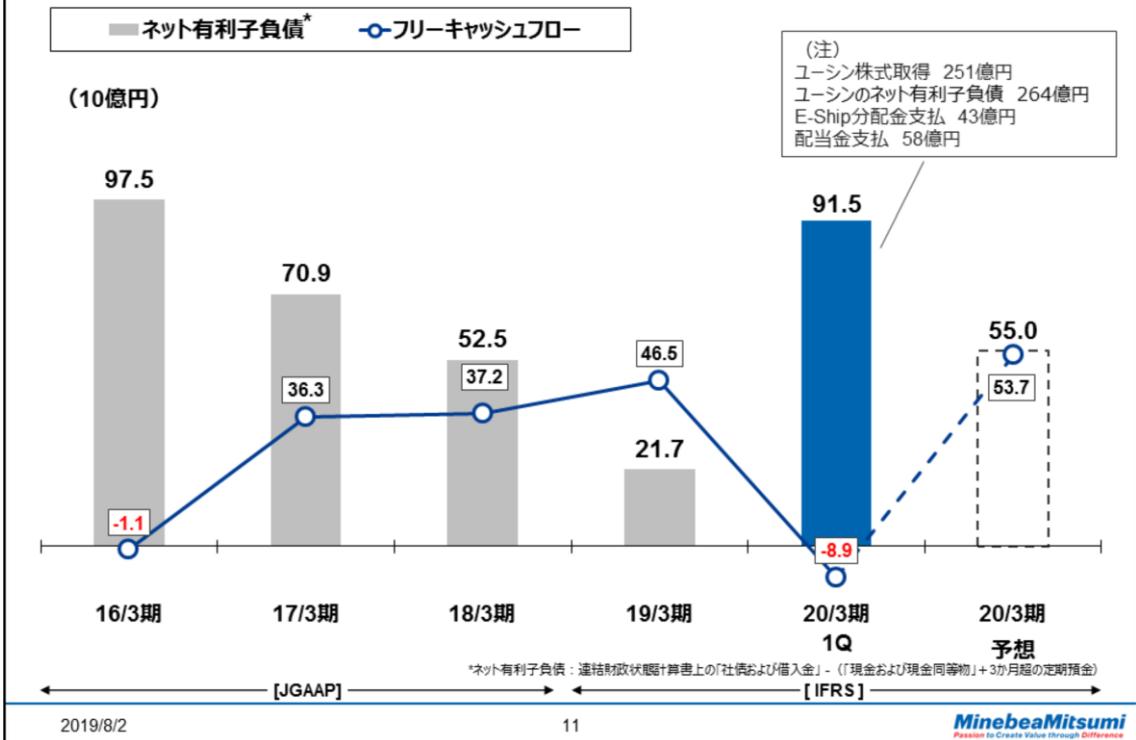
当期利益は23億円、1株当たりでは5.5円となりました。



続きまして、棚卸資産の四半期ごとの推移です。

第1四半期末は1,744億円となり、3カ月前と比べると330億円の増加となりました。

なお、ユーシンの連結に伴い、同社の在庫(154億円)が含まれています。



このグラフは、有利子負債総額から現預金を差し引いたネット有利子負債の推移を棒グラフで、フリーキャッシュフローの金額を折れ線グラフで表しています。

第1四半期末におけるネット有利子負債は915億円となり、2019年3月末から698億円増加しました。これは配当および賞与の支払いに加えて、ユーシンのTOBIによる支払い済み251億円、ユーシンのネット有利子負債264億円、E-Shipの分配金支払43億円などが含まれています。

期初計画を据え置き [IFRS]

(百万円)	2019年3月期		2020年3月期		
	通期	上半期	下半期	通期	前期比
売上高	884,723	496,500	533,500	1,030,000	+16.4%
営業利益	72,033	27,000	50,000	77,000	+6.9%
税引前利益	71,321	26,500	49,500	76,000	+6.6%
親会社の所有者に帰属する 当期利益	60,142	21,400	40,600	62,000	+3.1%
基本的1株当たり 当期利益 (円)	143.90	51.55	97.80	149.35	+3.8%

為替レート	2019年3月期 通期	2020年3月期 2Q-4Q想定
US\$	110.67円	110.00円
ユーロ	128.75円	125.00円
タイバーツ	3.42円	3.45円
人民元	16.52円	16.50円

2019/8/2

12



これは、今期2020年3月期の業績予想をまとめたものです。

第1四半期の実績は想定を若干下回った一方で、第2四半期には製品の季節性による売上の増加が見込まれますが、貿易摩擦による市場の不透明感や為替動向等を鑑みて、上半期予想および通期予想について期初計画を据え置くこととしています。

為替レートは1ドル110円を想定しています。

[IFRS]

(百万円)	2019年3月期	2020年3月期			
	通期	上半期	下半期	通期	前期比
売上高	884,723	496,500	533,500	1,030,000	+16.4%
機械加工品	188,324	93,400	96,600	190,000	+0.9%
電子機器	387,293	189,700	214,300	404,000	+4.3%
ミツミ事業	308,423	140,900	149,100	290,000	-6.0%
ユーシン事業	-	72,000	73,000	145,000	-
その他	683	500	500	1,000	+46.4%
営業利益	72,033	27,000	50,000	77,000	+6.9%
機械加工品	47,750	24,500	26,500	51,000	+6.8%
電子機器	16,922	5,300	15,700	21,000	+24.1%
ミツミ事業	22,282	5,900	9,100	15,000	-32.7%
ユーシン事業	-	3,100	4,900	8,000	-
その他	△ 386	△ 1,000	△ 1,000	△ 2,000	5.2倍
調整額	△ 14,535	△ 10,800	△ 5,200	△ 16,000	+10.1%

2019/8/2

13


 MinebeaMitsumi
 Passion to Create Value through Difference

こちらは、各事業セグメント別の予想です。

セグメント別の業績予想につきましても、期初計画を据え置きとしています。

- **全体**：マクロ経済の減速は**期初想定より長引くと予想**。
ただし、電子機器、ミツミ事業を中心に**2Q以降は大幅回復へ**。
- **機械加工品**：**航空機向けは順調なもの**、
ボールベアリングの足元は**想定以上に弱い**。
- **電子機器・ミツミ事業**：全体として**米中貿易問題の影響**を受け、**多様化したポートフォリオ（市場別、製品別）**が収益を支える。**リスク分散にも寄与**。
- **ユーシン事業**：中国を中心とした**世界的な自動車市場減速の影響**を受けている。

2019/8/2

14

貝沼です。私の方から、本日のポイントを説明します。

景況感としては、マクロ経済の減速が当初想定よりも少し長引くと予想していますが、2Q以降は電子機器・ミツミ事業を中心に大幅な回復を予定しています。

7月単月の売上高は890億円を超えました。前年は700億円でしたので、ユーシン統合による影響約110億円を除いても、この状況の中で80億円程度伸びているということです。少し底を打った感じもしますが、今後も状況を注視していきたいと思えます。

機械加工品においては、航空機向けは引き続き堅調で想定以上に利益を拡大していますが、私どもの製品の中で一番景気動向をとらえやすい、シェアの高い製品であるボールベアリングは足元では想定以上に弱いと感じています。

電子機器・ミツミ事業においては、米中貿易摩擦の影響を受けていますが、ポートフォリオを多様化してリスクを分散するという当初の目的の通り、2Qはこれらのセグメントの製品が業績の下支えをしていくと思っています。

今年から統合されたユーシンにおいては、世界的な自動車市場減速の影響を受けています。中国も自動車の販売台数が約20%落ちていますし、欧州も今ひとつ調子がよくありません。しかしながら、我々がユーシン欧州の業務改善を支援したことにより、極めて短期的に品質改善が行われています。ある大手の自動車メーカーからは、これほどの短期間に品質が改善されるとは思っていませんでした、というお褒めの言葉もいただきました。全体の自動車の景況感はいかんともしますが、ユーシンの業績と品質の改善は予定通りのスピードで進んでいます。

企業価値向上に向けた施策が着々と進行中

1 オーガニック成長

ボールベアリング

- ・足元で車載は堅調だが、FAN向けは落ちている
- ・自動車、データセンター、高級家電、省人化・無人化（医療ロボット等）向けの中長期的な需要増は不変
- ・来期に向けては中国省エネ規制による家電向けの需要増を見込む

ステルス製品は順調に進捗

2 M&Aは、大小さまざまな案件を検討中

3 自社株買い実績はゼロ

2019/8/2

15

その他のトピックスにつきましてはスライドの通りです。

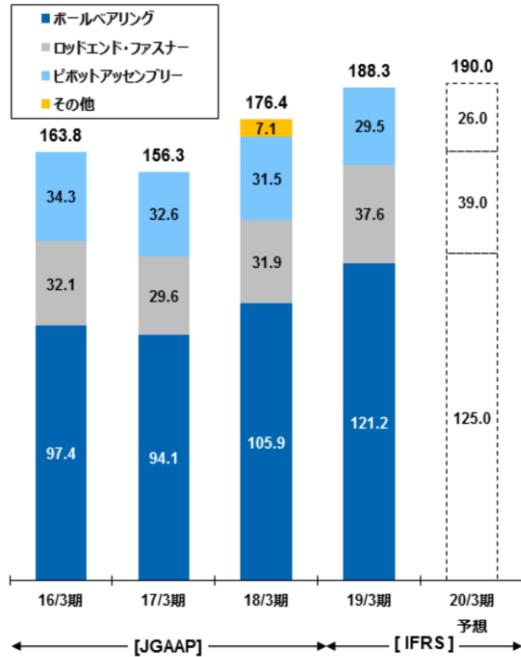
ボールベアリングは、自動車用は前年同期と比べると微増もしくは横ばいですが、ファンモーター向け・データセンター向けが大きく落ち込んでいることに加えて、高級家電向けも少しスローダウンしています。

また、前回決算発表の際に「次の10年で売上高2.5兆円を目指すなかで、約5,000億から8,000億円はM&Aで伸ばす」と説明しましたが、これを受けて色々な分野から様々なお誘いを受けています。詳細を申し上げることができませんが、自社株買いをタイムリーに実施できない大きな要因となっており、結果として自社株買いの実績はゼロとなっています。

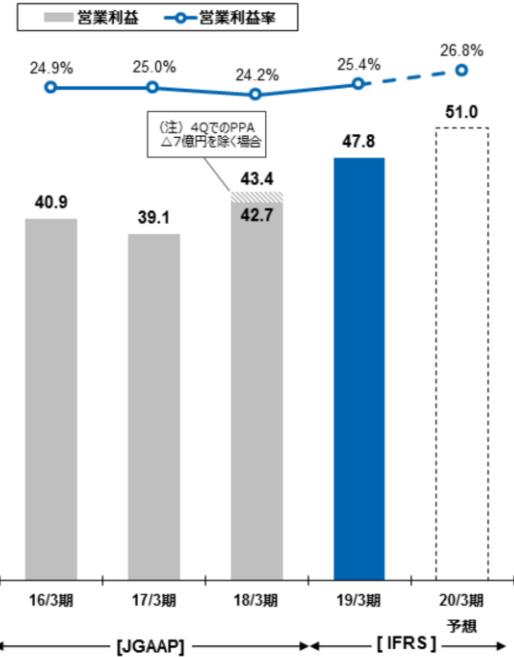
簡単ですが、私の説明は以上です。

參考資料

売上高 (10億円)



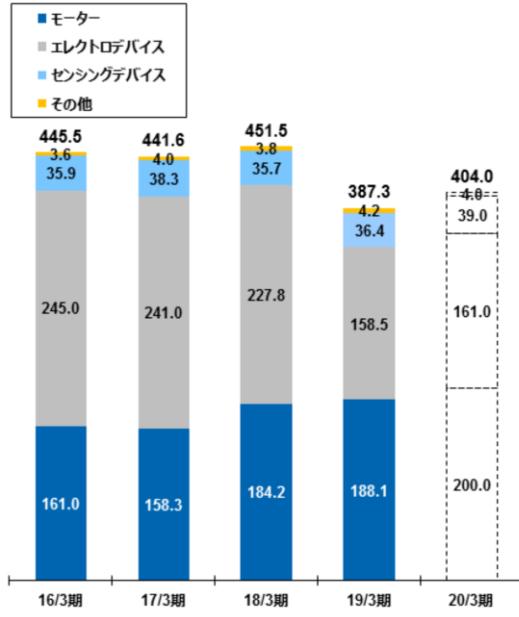
営業利益 (10億円)



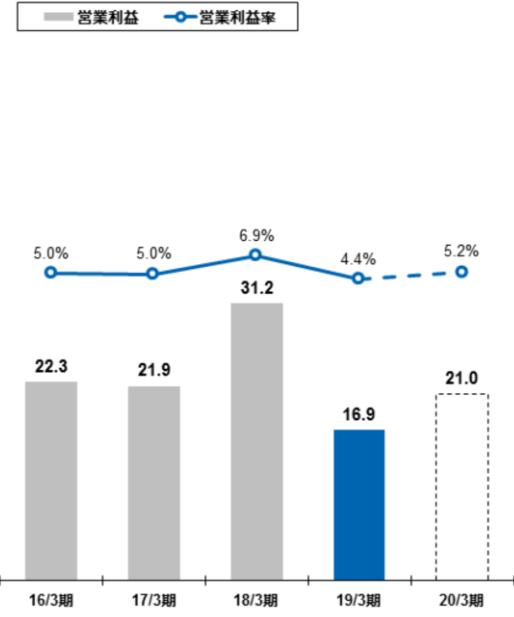
2019/8/2

17

売上高 (10億円)



営業利益 (10億円)



← [JGAAP] → ← [IFRS] → ← [JGAAP] → ← [IFRS] →

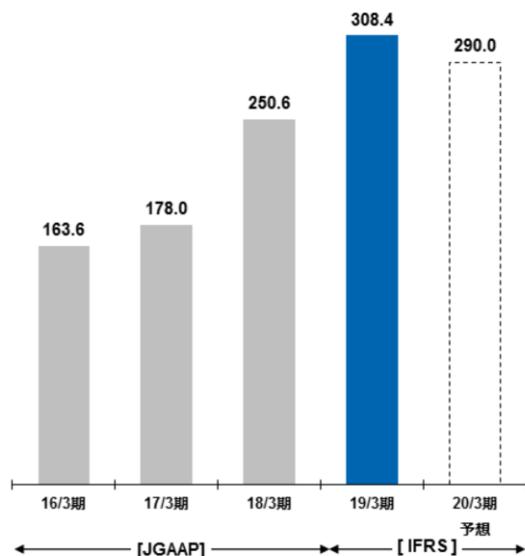
2019/8/2

18

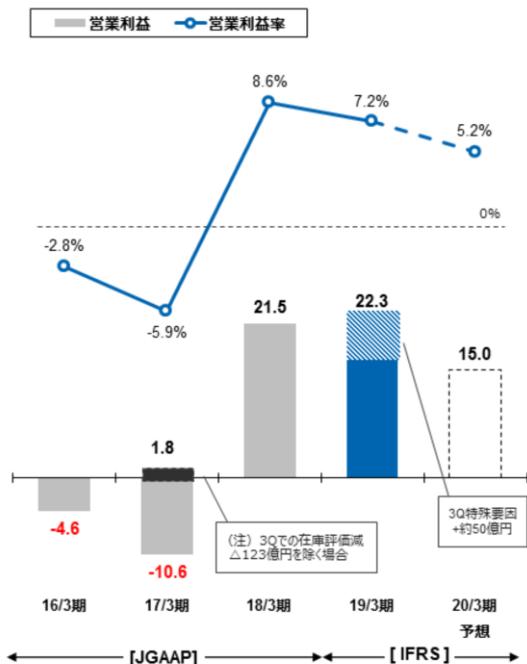
ミツミ事業セグメント

売上高、営業利益ともに、17/3期3Qまでは、経営統合前。
17/3期4Qは3ヶ月分の管理会計ベース。18/3期以前はJGAAP

売上高 (10億円)



営業利益 (10億円)



2019/8/2

19

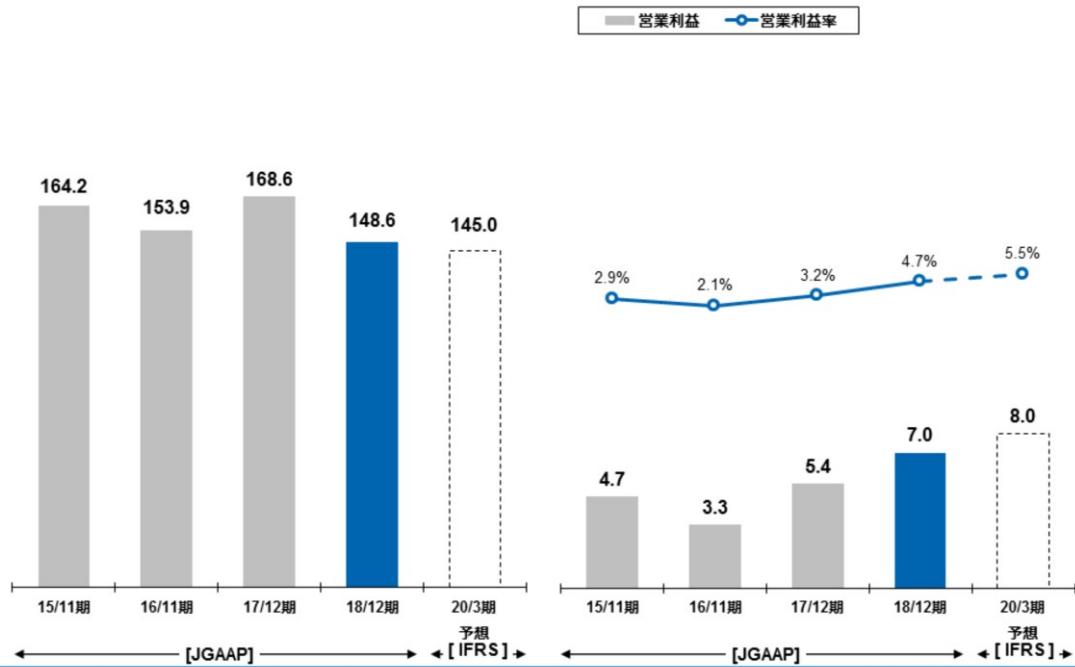
MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

ユーシン事業セグメント

決算期変更に伴い17/12期は13ヶ月決算
 18/12期以前は経営統合前の参考値でJGAAP
 20/3期は2019年1-3月の数値を含まず

売上高 (10億円)

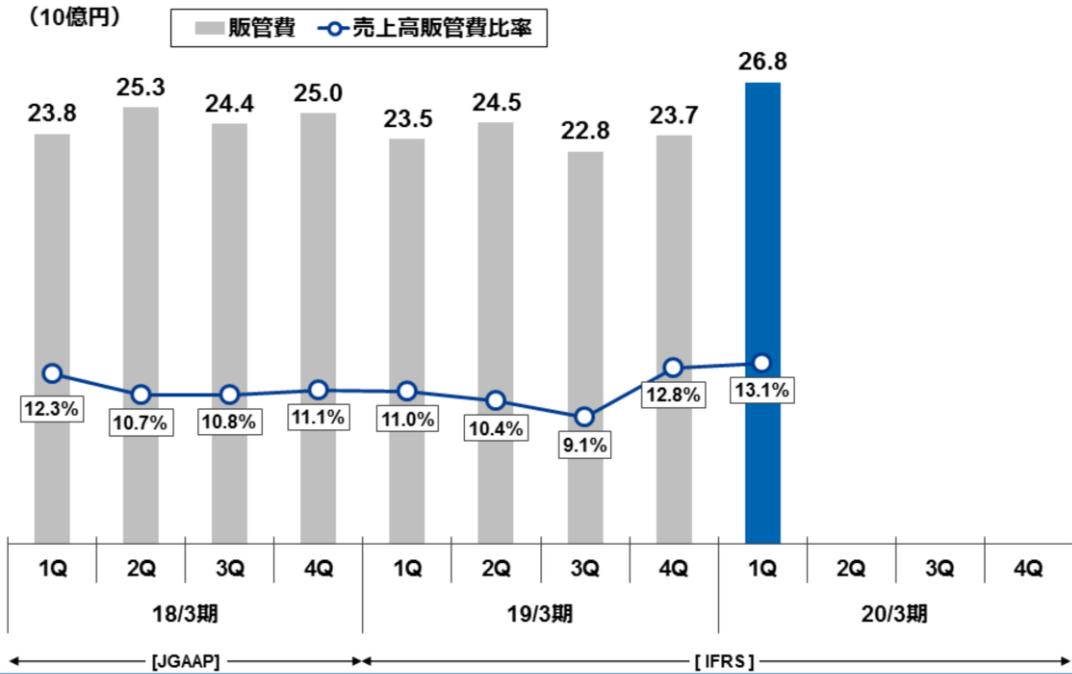
営業利益 (10億円)



2019/8/2

20

MinebeaMitsumi
 Passion to Create Value through Difference



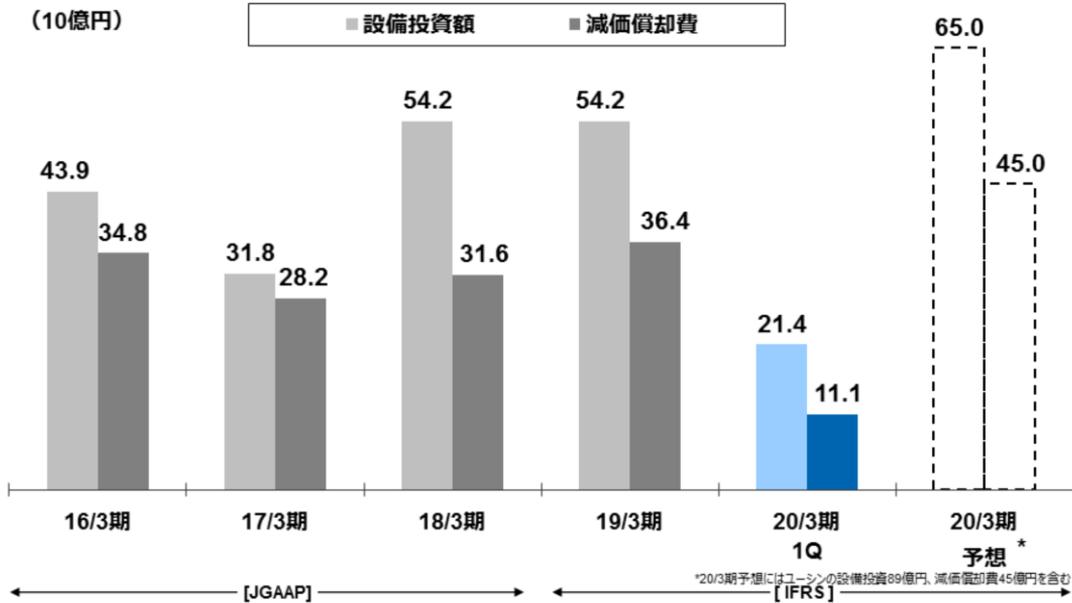
2019/8/2

21

設備投資額・減価償却費

18/3期以前はJGAAP

(10億円)



2019/8/2

22

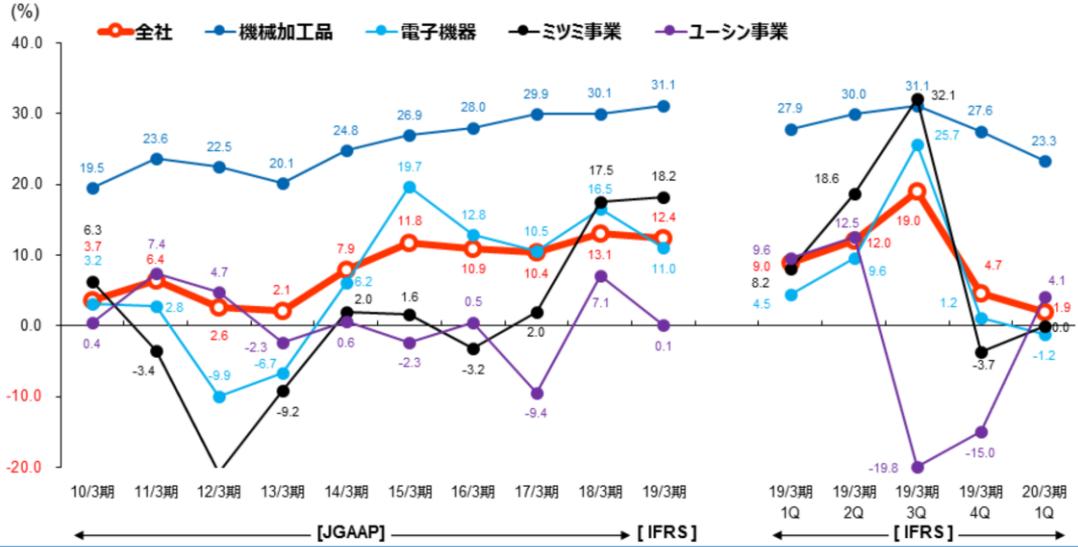
MinebeaMitsumi
 Passion to Create Value through Difference

ROIC (投下資本利益率)

ユーシン事業は19/3以前は経営統合前の参考値でJGAAP、全社には含まない。その他のセグメントは18/3期以前はJGAAP

$$\text{ミネバミツミ版 ROIC} = \frac{\text{NOPAT (営業利益+特別損益)} \times (1-\text{税率})}{\text{投下資本 (受取手形+売掛金+棚卸資産+固定資産-支払手形-買掛金)}}$$

セグメント別で管理できる事業資産 (売上債権・債務、棚卸資産、固定資産) で算出



2019/8/2

23

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference



上記説明会で述べられた内容のうち歴史的事実でないものは、一定の前提の下に作成した将来の見通しであり、また、それらは現在入手可能な情報から得られた当社経営者の判断にもとづいております。実際の業績は、さまざまな要素により、これら見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。実際の業績に影響を与える重要な要素としては、(1)当社を取り巻く経済情勢、需要動向等の変化、(2)為替レート、金利等の変動、(3)エレクトロニクスビジネス分野で顕著な急速な技術革新と継続的な新製品の導入の中で、タイムリーに設計・開発、製造・販売を続けていく能力、などです。但し、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。本資料に掲載のあらゆる情報はミネベアミツミ株式会社に帰属しております。手段・方法を問わず、いかなる目的においても当社の事前の書面による承認なしに複製・変更・転載・転送等を行わないようお願いいたします。